

題名 ^{ふゆめ} ^{ようこん} 冬芽と葉痕を観察する

1. 学習のねらい

動植物の活動が顕著に見られない冬の季節には、校庭など、野外に出て自然を観察する機会はほとんどありません。また、観察の対象を探すことも容易ではありません。落葉樹は、葉を落とし、冬を耐え春を待つとき、大切な芽を守るために、その木独特の形の冬芽を作ります。さらに、葉が落ちた後には、興味深い形の葉痕が残ります。それらを観察することによって、1年間を通した樹木の生命の連続や、四季おりおりの樹木の形態について学ぶことができます。

2. 実施について

- (1) 実施時期：落葉樹が葉を落とした季節
- (2) 実施場所：学校敷地内または近くの公園などの野外
- (3) 指導時数：2時間程度
- (4) 指導対象：全学年

3. 準備するもの

- (1) 資料1～4を印刷して配布します。
- (2) 剪定ばさみ（または丈夫なはさみ）、ルーペ

4. 学習の進め方

- (1) 例えば、資料にあるカラスザンショウの葉痕などを拡大し、提示します。

「何に見えますか。」と興味関心を持たせます。

- (2) 冬芽を説明します。

冬芽には、鱗のような堅い皮で包まれたものや、深い毛で覆われたものなどがあります。また、枝の先に付いている芽は頂芽、葉痕の上に着いているものは側芽と呼ばれます。

さらに、芽が傷ついたときのために、その下にいくつか並んだ予備の芽、副芽をもつものもあります。葉になる葉芽と花になる花芽があります。これらを切ってみましょう。

- (3) 葉痕を説明します。

葉痕は枝の側面についていて、その木独特の形をしています。複葉（ふくよう）といって、一枚の葉が大きく何枚もの葉に分かれている木には、大きな葉痕があります。また、維管束痕が人や動物の顔のような配列になっているものがあるあって、小さな子どもでも興味深く観察できます。

- (4) 実際に観察します。

どこの学校にでもありそうな、モクレンなどで「こんなのを冬芽といいます。」と説明し、サンゴジュなどで「こんなのを葉痕といいます。何に見えますか？」と実物を見せます。

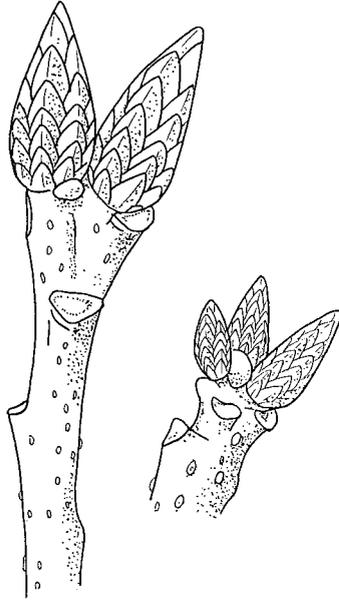
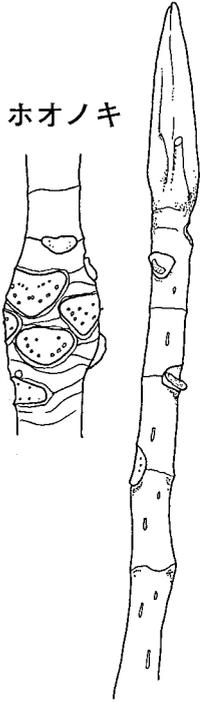
そのあと、自由に探させて観察し、スケッチします。

野外では、クズやハリエンジュ（ニセアカシア）、オニグルミ、カラスザンショウなどの葉痕が最も子どもの興味をひくでしょう。

資料1

とくちょうき ふゆめ
《特徴的な冬芽》

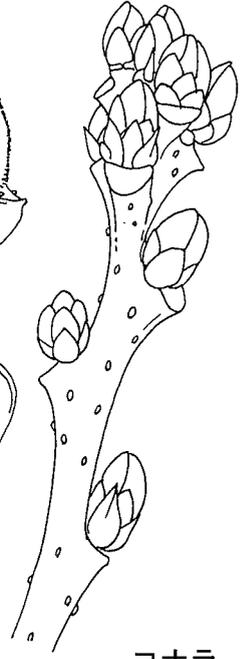
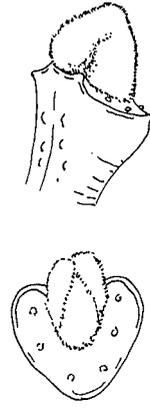
ホオノキ



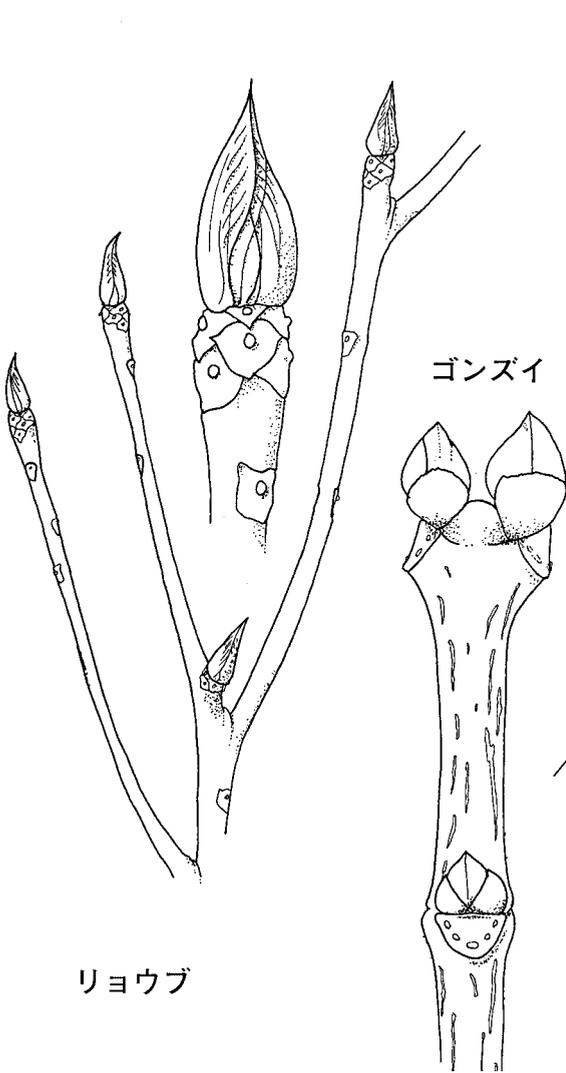
クヌギ



ヌルデ

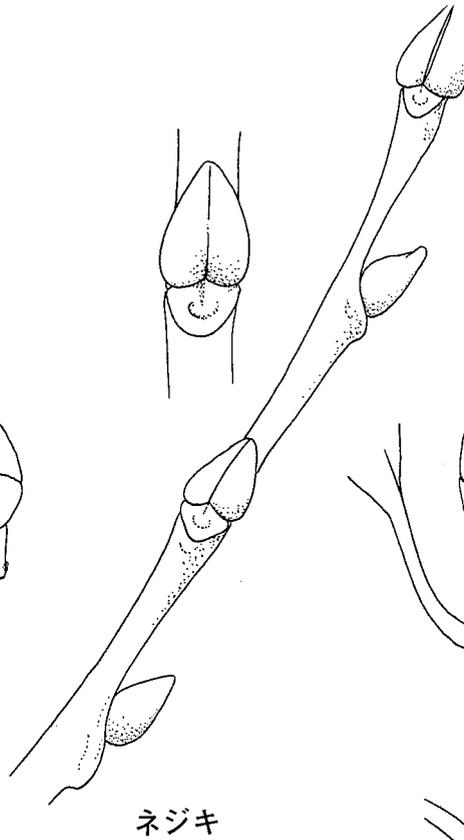


コナラ

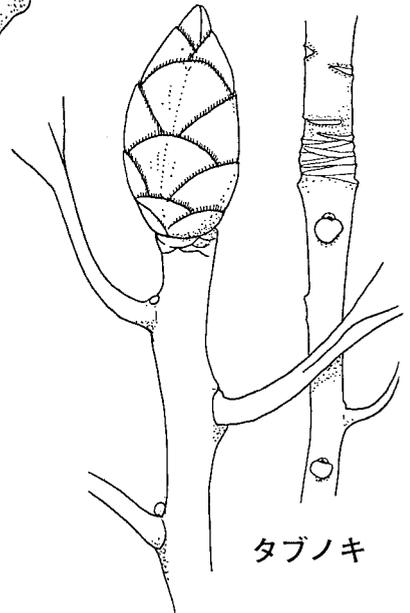


ゴンズイ

リョウブ



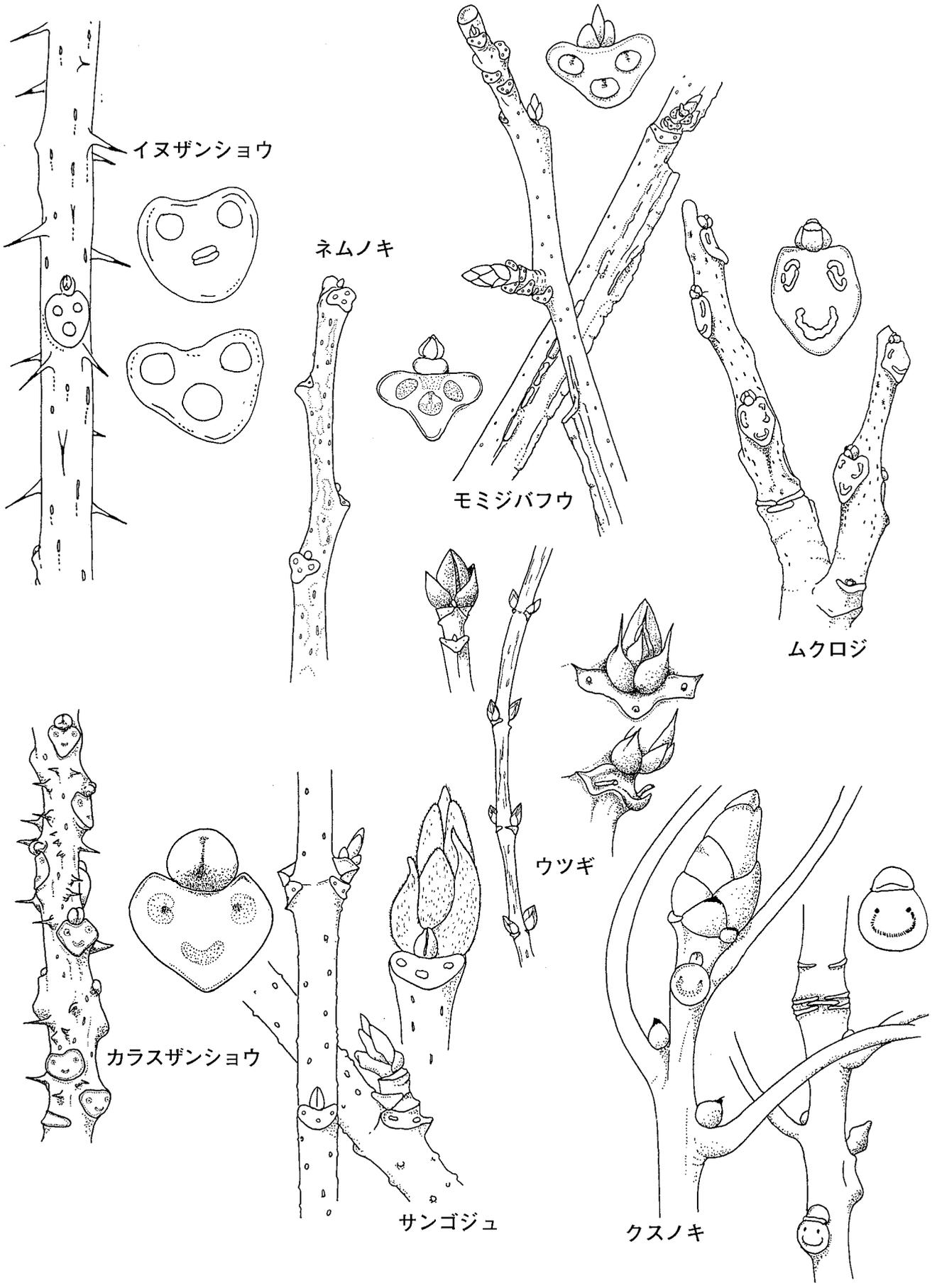
ネジキ



タブノキ

資料2

《何かの顔に見える葉痕》
かお ようこん



イヌザンショウ

ネムノキ

モミジバフウ

ムクロジ

カラスザンショウ

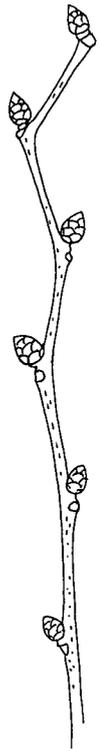
サンゴジュ

ウツギ

クスノキ

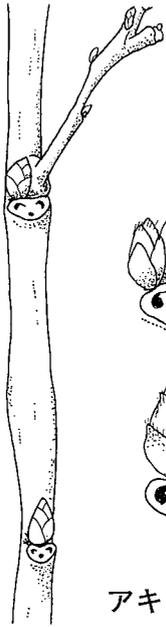
資料3

《何かの顔に見える葉痕》
かお ようこん



葉痕

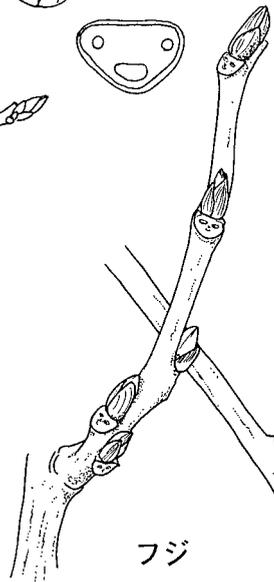
ケヤキ



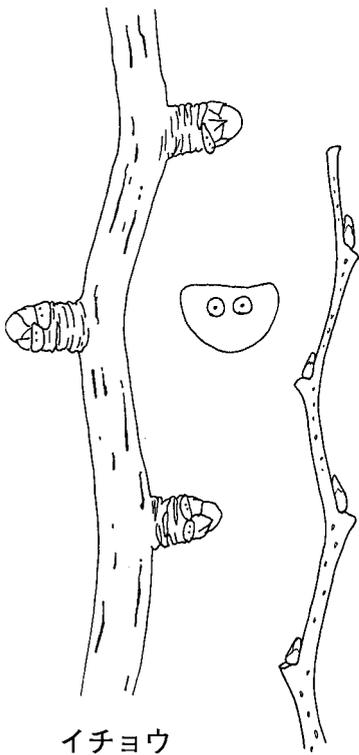
アキノレ



ムクノキ

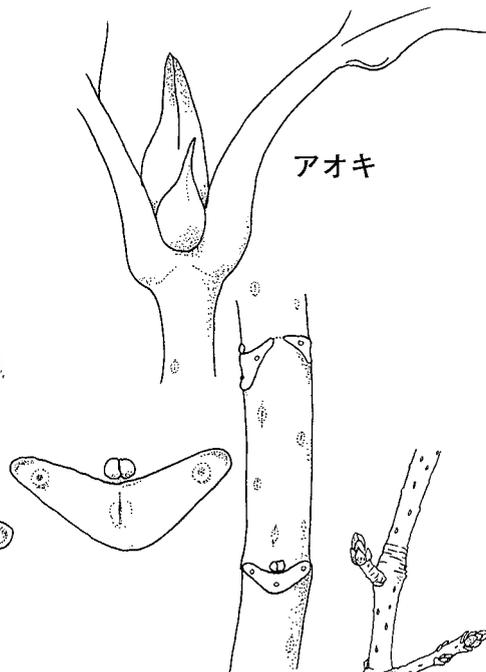
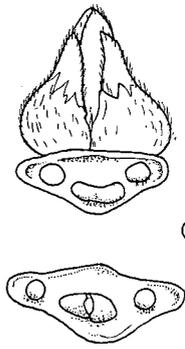


フジ



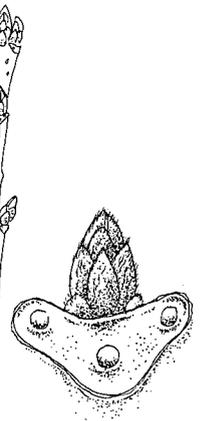
イチヨウ

エノキ



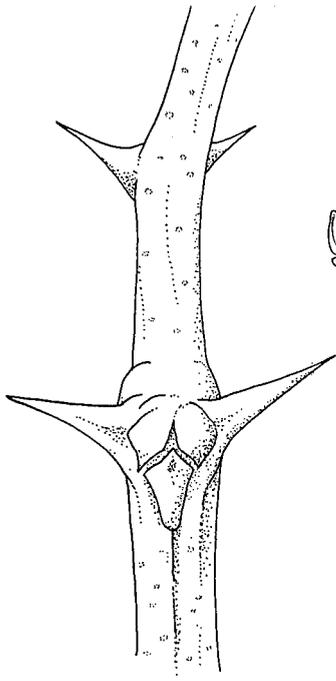
アオキ

トウカエデ



資料4

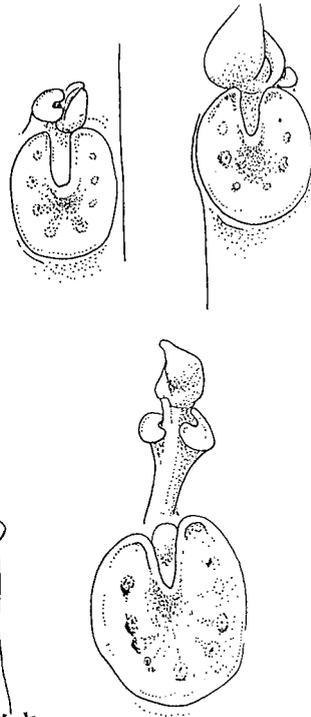
とくちょうてき ようこん
《特徴的な葉痕》



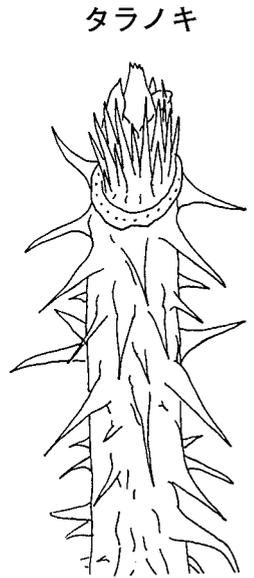
ハリエンジュ



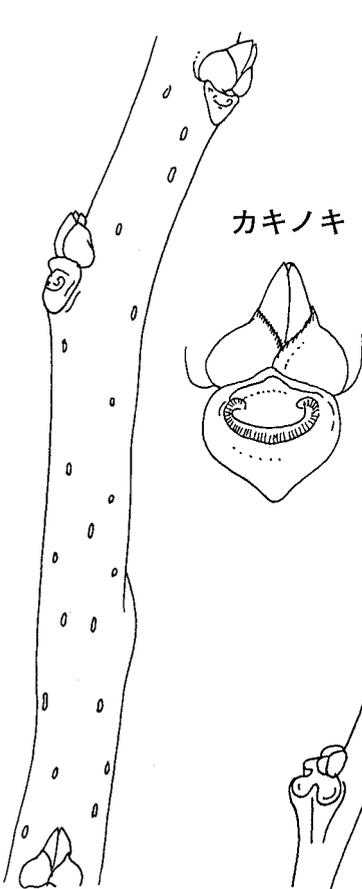
モミジバズカケノキ
(プラタナス)



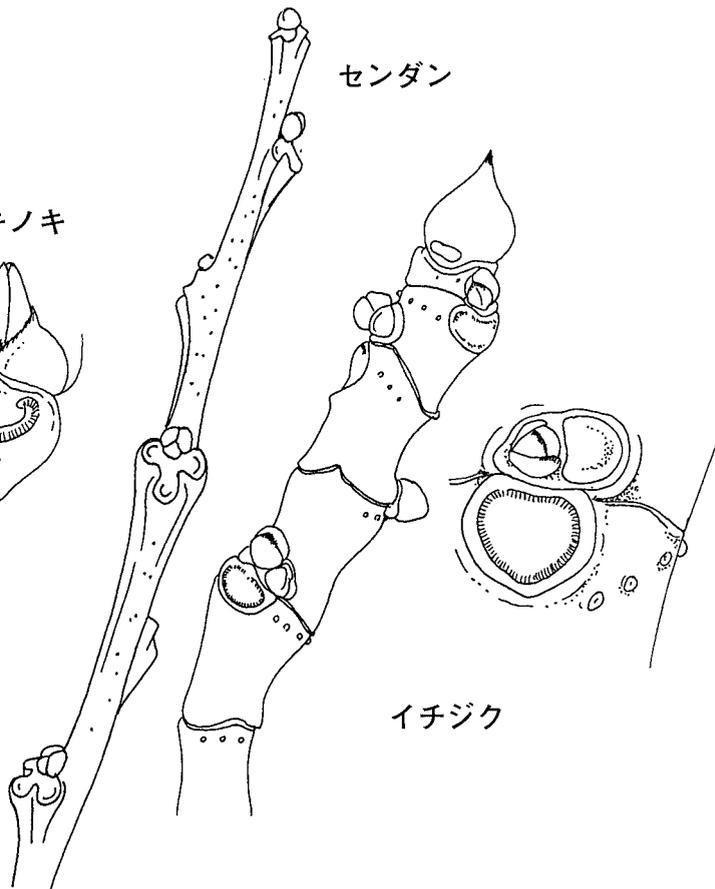
クサギ



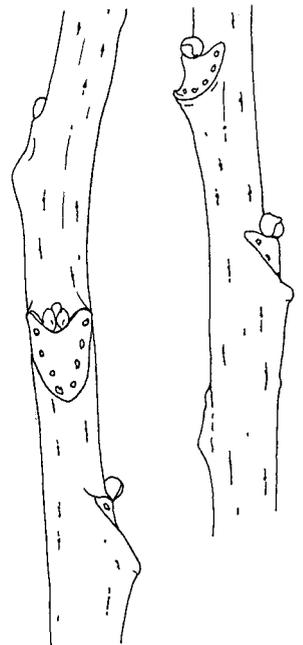
タラノキ



カキノキ



イチジク



ニワウルシ